

プレカット ニュース

一般社団法人 全国木造住宅機械プレカット協会

東京都千代田区永田町2丁目4番3号永田町ビル6階

TEL 03 (3580) 3215 FAX 03 (3580) 3226

<http://www.precut-kyokai.com>

平成 23 年度総会開催される 全国木造住宅機械プレカット協会 一般社団法人全国木造住宅機械プレカット協会

全国木造住宅全国プレカット協会第 27 回通常総会及び一般社団法人全国木造住宅機械プレカット協会第 1 回定時社員総会が平成 23 年 6 月 23 日（木）に東京都千代田区六番町の主婦会館で、多数の会員、御来賓の出席のもとに開催されました。

櫻井会長は、冒頭の挨拶の中で、「平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災は、東北地方を中心として未曾有の大被害をもたらし、犠牲になられた方々のご冥福をお祈り申し上げるとともに、被災された皆様には心からお見舞いを申しあげ、一日でも早い復旧・復興を心からお祈り申しあげる。

我が国経済は、円高の進行、デフレの深刻化が進む中で、企業収益の減少や厳しい雇用情勢が続いている。東日本大震災の復旧、復興が進みつつあるが、電力供給については 7 月から 15% の使用削減が行われることになり、国民生活のみならず、産業界の生産活動にも少なからず影響を与えることが懸念される。昨年の新設住宅着工戸数は 81 万 3 千戸で着工戸数の回復には程遠い状況で推移しているが、昨年 10 月には、「公共建築物等への木材利用促進法」が施行され、中規模、大規模の木造建築物の増加が期待されるようになった。また、林野庁においては、国産材の自給率 50% を目指すため、昨年 11 月に森林・林業再生プランを着実に進めるための道筋が明らかにされ、今後、木造建築物の普及促進が一層図られるものと期待される。



林野庁木材産業課 淵上和之課長



櫻井会長

プレカット加工業の生産性の向上は着実に進んでいる。しかし、加工単価の下落低迷、資材価格上昇分の販売価格への転嫁の困難性等の厳しい状況のなかで、消費者からは住宅の安全・安心を求める声により一層高まっている。このような、プレカット加工業を取り巻く環境の変化を踏まえ、会員に対する技術、業務支援を充実するため、平成 23 年度から一般社団法人として新たな体制で事業運営を行うことになった。今後、品質の確かなプレカット部材の供給とプレカット加工

CAD を活用した各種の木造住宅建築に関するサービスの充実を図っていく所存である。」と、一般社団法人として、新たな体制で臨む決意が述べられました。

また、来賓を代表して、林野庁木材産業課 課長 瀧上和之様からは、「最近の木造住宅を取り巻く動きを見ると、まず、この春に策定された住生活基本計画の中では、木造住宅に関する記述が大幅に増加しており、今後、地域材住宅という位置付けが国産材の供給と関連して重要になってくると思う。

また、林野庁においては、森林・林業基本計画の見直しを行っており、これからは、積極的に人工林からの供給に切り換えていく。また、昨年の公共建築物への木材利用の促進に関する法律を作ったが、これも、今年度から本格的に動いていくということで、積極的に木材を使っていくという動きを加速化したい。

林野庁としては、木材を積極的に使っていくことが環境に貢献することであり、地元の工務店さんを中心に普及するということが地域産業や地域の振興にもつながっていくと考えている。今回の復旧住宅においても、地元の工務店さんの方が地域材を使用した地域振興に果たす役割という観点を非常に強く求められている。是非、プレカット協会の皆様と一緒に、木造住宅の振興から住宅産業が元気になることが、日本が元気になることと考えている。その中で、木材を人工的な資源としていくことは山村の振興にもつながっていくという観点で積極的に施策を進めたい。」という、ご指導と激励がありました。

また、財団法人日本住宅・木材技術センター 理事長 岸純夫様からは、「住木センターは、住宅と木材の利用の調査研究を総括的に扱うことが任務であるが、実際に事業として木材と住宅を結ぶのがプレカット協会であり、極めて密接な関係の中にあると思う。東日本大震災による住宅被害の現地調査の結果について取りまとめ中であるが、とにかく津波の凄さの印象が強いということである。津波関係のいろいろな研究で、約 80cm の浸水深で、建築基準法に適合した家は壊れるくらいの力がかかるであろうといわれており、実際にはそれ以上のかなりの力が加わっている。



財団法人日本住宅・木材技術センター 岸純夫理事長

被害については、低層建築物に限ってみると、RC 造も木造も変わらないというのが現状である。現に残っているものもあるが、それをどのように使うかということが問題になる。

もう一つは、2000 年に建築基準法で耐震関係の基準が大幅に入れられたが、それ以前の建物とその後の建物は基本的にすべて壊れている。年代にかかわらず、作り方にかかわらず、すべて壊れてしまっているということである。

3 点目は、ラーメン構造では、構造部分が残っているものがある。これは、壁に耐力を持たせなかったために、このようになったと思われる。壁耐力を持たせている木造住宅とは壊れ方が違うということになる。これらの調査結果をもとに、今後、木造住宅の構造を検討していくことも重要になってくる。プレカット加工についても関係の深いことになるので、皆様のご協力をお願いしたい。」と震災の被害調査をふまえて、プレカット加工業に対して期待が述べられました。

総会では、まず、プレカット協会第 27 回通常総会の議事が行われ、平成 22 年度事業報告、収支決算報告が上程され、原案どおり承認されました。この承認をもって、全国木造住宅機械プレカット協会は解散することになりました。次に一般社団法人全国木造住宅機械プレカット協会第 1 回定時社員総会の議事が行われ、平成 23 年度事業計画、収支予算等が上程され、原案通り承認されました。また、役員の変更も行われ、全役員が再任されました。

総会に引き続き、芝浦工業大学名誉教授 藤澤好一氏による「これからのプレカット加工業に期待すること」と題して記念講演が行われました。講演では、木造軸組工法住宅の生産は、従来は大工の生産情報生成力によって生産管理されていたが、大工の高齢化と減少により工務店を中心とする生産情報生成力に進化してきた。一方、プレカット加工率は二十数年で90%を超える状況になってきた。また、耐震偽装事件等の結果、法制度の改正が行われ、申請関係図書についても増加し、構造図作成や構造チェックをふまえた加工を実施するために、工務店とプレカット工場との連携はより深まってきた。長期優良住宅普及促進法、公共建築物木造化普及促進法とともに循環型社会と人材育成をその中に据えている。新築の木造建築物の7割は4号建築物であり、また、木造住宅のストックで昭和56年以前の住宅は1100万戸あり、これらは耐震改修が必要になっている。これらに対応していくためには、地域全体で情報力、対応力、木造建築士等の人材力、工務店の連携力をサポートする組織が必要で、その役割をプレカット工場に期待したい。等について、パワーポイントを使用され、1時間にわたり講演されました。プレカット加工業の揺籃期から現在まで4半世紀にわたって業界の変化と最近の木造建築とりわけ国産材使用に関連して新たな施策が創設されている中で、これからのプレカット加工業について貴重な指導をいただきました。



芝浦工業大学 藤澤好一名誉教授

災害復旧及び地域材利用促進のための 利子助成事業が開始される

－ 募集期間平成23年6月3日～8月26日 －

東日本大震災の復旧支援対策関連事業のうち災害復旧関係資金利子助成事業について、全国木材組合連合会が実施することになり、6月3日から募集を開始しています。関係地域には6月下旬から7月上旬に説明会を開催することとしています。また、本年度から新たに実施する地域材利用促進緊急利子助成事業も6月3日から募集を開始しています。

このうち、災害復旧関係資金利子助成事業は、東日本大震災の被害を受けた林業者等（一定程度の森林を保有する者）が対象で、林業・林産業施設等の復旧に必要な資金や運転資金を日本政策金融公庫から借り受けた場合に最大2%まで利子助成（利子助成期間は最長15年間）を行うものです。助成の対象者は、①直接被害を受けた方。②間接的な被害を受けた方。要件は、借入れ申込みまでの二ヶ月の売上額、受注額若しくは生産量等が前年同期に比べて3割以上減少しているか経営費が3割以上増加していること。募集期間は平成23年8月26日までになっています。

また、地域材利用促進緊急利子助成事業は、林業経営改善計画または合理化計画の認定を受けた林業者が、木材の加工、流通体制の改善等のために必要な資金を日本政策金融公庫、民間金融機関から借り入れる場合に最大2%まで利子助成（利子助成期間は最長15年間）を行うものです。募集期間は8月26日までです。

両事業とも詳しくは、全国木材組合連合会（〒100-0014 東京都千代田区永田町2-4-3 永田町ビル6F TEL 03-3580-3215）または最寄りの都道府県木材組合連合会等までお問い合わせ下さい。

一般社団法人全国木造住宅機械プレカット協会 役員名簿

(役職名)	(氏 名)	(会 社 名 等)
会 長	櫻 井 秀 弥	征矢野建材株式会社
副 会 長	尾 藪 春 雄	社団法人全国木材組合連合会
副 会 長	原 田 実 生	原田木材株式会社
常務理事	清 水 眞 長	一般社団法人全国木材検査・研究協会
常務理事	高 橋 秀 通	一般社団法人全国木造住宅機械プレカット協会
理 事	川 村 武	株式会社カワムラ
理 事	小野田 康 生	株式会社オノダ
理 事	後 藤 修 一	株式会社ウンノハウス
理 事	柵 木 裕 司	恒栄資材株式会社
理 事	山 田 範 夫	ニューハウス工業株式会社
理 事	石 川 洋 治	株式会社一条工務店
理 事	山 田 稔	大日本木材防腐株式会社
理 事	海 部 幸 治	株式会社ケー・エイチ・ケー
理 事	榎 本 長 治	山長不動産株式会社
理 事	山 下 和 夫	山下木材株式会社
理 事	永 野 易 美	山佐産業株式会社
監 事	中 野 峰 孝	株式会社中野屋銘木店
監 事	松 島 康 之	株式会社ウッド・ストラクチャー
顧 問	海 部 幸 忠	(株) ケー・エイチ・ケー代表取締役会長
顧 問	齋 藤 陸 郎	ウッドワイステクノロジー (株) 代表取締役
参 与	平 賀 昌 彦	

(順不同 敬称略)

平成22年度協会会員工場基礎調査結果について(第1回)

－ 会員からみたプレカット加工率について －

今回から、本年1月に実施した平成22年12月末現在の会員工場基礎調査結果の紹介を行います。会員の皆様には、お忙しい中、アンケート調査にご協力いただきありがとうございました。平成22年12月末の地域別プレカット加工率の全国平均は87.3%と推定しました。

プレカット加工率(%)	北海道・東北	関東	中部・近畿	中国・四国・九州	全国計
60～64				60	60
65～69	65				65
70～74	70				70
75～79	75		75	75	225
80～84	80、80、80、 80		80		400
85～89		85、88		85	258
90～94	90、90、90 90	90、90、90	90、90、90、 90、90、90、 90	90、90	1,440
95～	95	95、95、95、 95、	95、95、95、 95、95	95、95、95	1,235
合計	985	823	1,260	685	3,753
(平均)	(82.0)	(91.4)	(90.0)	(85.6)	(87.3)
[前年平均]	[84.1]	[87.8]	[87.7]	[85.0]	[86.2]

◇簡単なコメント

- 1 平成22年12月末の会員が推定する地域のプレカット加工率は、全国平均で87.3%と前年調査に比べて1.1ポイントの上昇しましたが、総体としては頭打ちの様相といえるでしょう。
- 2 関東及び中部・近畿地域においては、プレカット加工率は90%台になりました。ハウスメーカー、ビルダーの生産する戸建て住宅では、ほぼすべての構造用部材がプレカット加工されており、このほか、羽柄材、合板等もプレカット加工が一般化しています。これが加工率を押し上げている要因でしょう。
- 3 一方、北海道・東北地域では、プレカット加工率は低下しました。地場の工務店が多い地域においては、大工技能者による手刻みが依然として多い実態もうかがえます。

プレカット業況調査(平成23年5月期)

一般社団法人 全国木造住宅機械プレカット協会調べ〔回答率：58%〕

設 問	回答率 (%)			DI	前回 DI
	(1)	(2)	(3)		
1-1 今月の受注額は3ヶ月前と比べて如何ですか。 (1)好転(5%以上の伸び) (2)変わらず(±5%未満) (3)悪化(5%以上の減)	35	35	30	+5	-41
1-2 3ヶ月後の受注額をどう予測しますか。 (1)好転(5%以上の伸び) (2)変わらず(±5%未満) (3)悪化(5%以上の減)	32	51	16	+16	+15
2-1 貴社の坪あたり平均総加工単価はいくらですか。	答：6,280円(対前回調査+30円)				
3-1 今月の製品加工単価は3ヶ月前と比べて如何ですか。 (1)好転(5%以上の伸び) (2)変わらず(±5%未満) (3)悪化(5%以上の減)	8	92	0	+8	-10
3-2 3ヶ月後の製品加工単価をどう予測しますか。 (1)好転(5%以上の伸び) (2)変わらず(±5%未満) (3)悪化(5%以上の減)	3	94	3	0	-6
4-1 今月の資材(製品)入手状況は如何ですか。 (1)容易 (2)変わらず (3)困難	16	62	22	-6	-28
4-2 3ヶ月後の資材(製品)入手状況をどう予測しますか。 (1)容易 (2)変わらず (3)困難	32	63	5	+27	-32
5-1 今月の収益は3ヶ月前と比べて如何ですか。 (1)良い(5%以上の伸び) (2)変わらず(±5%未満) (3)悪い(5%以上の減)	19	51	30	-11	-41
5-2 3ヶ月後の収益をどう予測しますか。 (1)好転(5%以上の伸び) (2)変わらず(±5%未満) (3)悪化(5%以上の減)	16	70	14	+2	0

* DI = (1)の% - (3)の%、+の数値が大きいほど好況、-の数値が大きいほど不況。

* 前回調査：平成23年2月

◇簡単なコメント

各地のプレカット工場の受注量のDIは、前回調査時に比べてプラスに転じた。資材入手状況は、震災の影響もあって品薄感が漂っているようだ。収益の改善はあまり芳しくはないが、加工単価が落ち着いているので、受注量の増加が収益の増加に反映されることが期待される。

1. 受注額のDIは+5で前回調査時(平成23年2月期)の-41より回復が見られる。また、3ヵ月後の予測は+16で、受注額は夏場にかけて増加していくことが期待される。
2. 平均総加工単価は6,280円で3ヵ月前に比べて+30円で横ばいといえるであろう。製品加工単価のDIは+8で改善の兆しは見られるが、3ヶ月後の加工単価予測のDIは0で長期的には横ばい傾向が続くと見ている。
3. 資材の入手状況は、震災の影響が払拭されない中で各工場の受注量の増加もあって、-6と品薄感はあるようだ。3ヵ月後の予測は、+27と大幅に緩むと見込んでいる。
4. 3ヶ月前と比べた収益のDIは、-11と厳しさは続いているが、3ヶ月後の予測は+2であり、多少改善が見込めるのではないかと。